

『家庭訪問：2題』

《家庭訪問 》

現職の時のことです。

「校長先生ちょっといいでしょうか。親からの電話で教頭では話にならないから校長を出せと言うのですが・・・。」

と、教頭が困り顔して校長室にやってきた。どんなことかと尋ねても教頭にもよく分からないという。電話を取ると先方の父親は早口に学校の対応を批判をしている。が、批判の対象となる事の起こりがさっぱり私にはわからなかった。

校長：「お父さん、私がなぜあなたに怒られているのかよくわからない。誠に申し訳ないが怒っている理由を教えてくださいませんか。」

父：「何だと！何にも聞いてネーだと！」

と、えらい剣幕で怒り出す。尤もなことである。

校長：「申し訳ないが本当にわからないんだ。どんなことがあったのか教えてくださいませんか。」

父：「校長が知らねーって何なんだ。」

と、怒りつつも事の起こりを話してくれ、ようやく事の次第がわかってきた。

校長：「わかった。お父さんの言うこともっともだ。怒るのもわかった。申し訳なかった。」

話していただいた内容について事実関係を調べさせてもらうこと、確認ができた時点で早急な対応をすることで了解をいただいた。

教頭を呼び事実関係の確認を指示した。指導部長に対応を確認した。

学年から事実関係について報告があったこと

担任が家庭訪問して、事実関係を伝えるとともに学校の対応について話をしてくるという報告を受けていたこと

問題はその報告が教頭に届いていなかったこと、さらに問題だったことは担任が家庭訪問せずに自宅に帰ったことであった。指導部長も担任が家庭訪問を行えば済む話であるとの認識であり、担任が家庭訪問を怠ったために事が大きくなったのである。

先方の父親には事実確認をしたこと、学校の対応に不備があったこと、早急な対応をすることを伝えお許しをいただいた。家庭訪問の徹底を指示してきたつもりであったが...

翌日、事の子細を職員に伝え、

真摯なしかも迅速な対応を心掛けること。相手がわかったと納得するまでの対応をすること

今やっておけばいいことを後回しにしない。大きくなってからでは対応がより複雑になりかねないこと

等々、改めてお願いした。このことで職員は私が言い続けてきた対応の慎重さを再認識したに違いない。

## 《家庭訪問 》

夜9時ころ、職員室へ入ったときのことである。ある学年の担任が、「あんまりいいことではないですが、いいこと有りました。T先生が今、Aさんの宅の家庭訪問から帰ってきました。」

と。そこへ当のT先生が教室から戻ってきて話を聴くことができた。

生徒指導でT先生が家庭訪問に行くことは報告を受けていた。「嫌な家庭訪問です。」「出かけて行って謝ってくるしかないです。」と言いながら出かけたのだから。

Aさんの“もの”が隠され校内を探すも見つからない事が何度かあった。またAさんに係る生徒指導も起きていた。その度にT先生はAさん宅を訪れては学校の取った対応について説明や謝罪をしてきた。対応には父親が出て学校の対応に不満を述べた。

T先生はAさん宅には必ず足を運んだ。足を運んで説明、謝罪を繰り返した。両親の仕事の関係でかなり遅い時間の訪問になることもあった。

この日は生徒間のトラブルが発生し、関係したAさん宅ともう一方宅の家庭訪問。いつもは父親が対応するAさん宅、ところが今日は奥さんが対応したという。奥さん曰く、

「わかったT先生。父さん毎度毎度先生が家まで来てくれるから、今日は出て来ないしょ。」と。担任はいつも責められ叱られっぱなしで肩を落としながら帰ってきていた。何度も足を運んでいたAさん宅の家庭訪問で初めてのことである。

T先生の労を労うとともに、足を運ぶことの大切さを語り合った。T先生も有り難いことと思いつつ、今後に向けての気持ちを新たしたに違いない。

先生方、あなたの家庭訪問はどのようにしていますか。家庭訪問の内容を工夫してみませんか。

形式的な家庭訪問以外に、不定期な家庭訪問を!!

「今日 さん、こんな事ができるようになったので、ちょっと寄って見ました。」

玄関先でもこんな話が聞けたら親は嬉しいし担任への信頼を深めるきっかけに

小さなケンカ・ケガでも一報を!!

電話はダメ、足を運ぶこと。関係が作られ親の方から「こんな事で来なくてもいい ですよ」と言われるまで

学校では『よくあること』でも、家庭では『とんでもないこと』との認識の違いを心得ておくべし。

保護者との気軽な話し合い、小さな相談活動の積み重ねで信頼を獲得する先生方の増えることを願いつつ……。